

授業と評価の年間計画

教 科	地理歴史	科 目	地理 B	
履修条件 対象生徒	選択 普通科・理数科 2年			
学習目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。			
学習方法	教科書（二宮書店）と地図帳（帝国書院）を核として、資料集コンプリート（帝国書院）やサクシード（啓隆社）を活用して授業を展開する。地図帳や地球儀を使うことで空間的な認識を深めるとともに、グラフや図表にも目を通し、日頃から各種統計資料の活用を図る。また、数多くの演習を通じて出題傾向をつかむ。また、作業を通じて地理的技能の育成を図る。			
学習計画 と ねらい	1 1 学期 (1) 中間 検査まで ア 地図と地理的技能 (7) 地理情報と地図 (イ) 地図と地域調査 (2) 期末 検査まで ア 自然環境 (7) 大地形 (イ) 小地形 (ウ) 日本の地形と自然災害		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の活用や地理情報の地図化を通して現代世界の地理的事象を捉えるための技能を身に付ける。 ・ 地域調査の方法やそれをまとめたり発表したりする方法を身に付ける。 ・ 世界の特色ある地形と人間生活との関わりを、具体例を通して考察する。 ・ 地形の形成要因は、地球内部からの力による内的営力によるものと、地球外部からの力による外的営力があり、それぞれの働きについて学習する。 	
	2 2 学期 (1) 中間 検査まで ア 気候 (7) 気候のしくみ (イ) 気候の地域性 イ 自然と生活 ウ 環境問題 (2) 期末 検査まで ア 資源と産業 (7) 農林水産業 (イ) 世界の食糧問題 (ウ) 資源・エネルギー		<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の気候区や土壌帯、植生の特色を理解し、人間生活との関わりを考察する。 ・ 日本の自然環境や喜子の特徴について調べ、それが生活にどのように影響しているかを学習する。 ・ 環境問題は複雑な問題であり、全地球的規模で考えなくてはいけない問題である姿勢を養う。 ・ 世界の農業地域の区分と、農業の基本的分類について、基礎的知識を身に付け、自然・社会条件との関わりを考察する。 ・ 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、その特色と基礎的知識を身に付ける。 	
	3 3 学期 (1) 学年末 検査まで ア 工業 (7) 工業の成り立ち (イ) 工業の立地 イ 流通と消費		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は、多様な特色をもっていることを理解するとともに、世界の諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。 	
評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統的・地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付け、追究した過程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	定期検査や課題検査の成績を重視するが、小テスト、授業態度、課題や提出物なども含め、総合的に判断して評価する。			
その他	センター試験では、地図・表・グラフ・写真などを見て答えさせる問題がほとんどである。単に暗記しているだけでは高得点は望めないため、授業では地図帳・資料集は必ず持参し、大いに活用すること。			